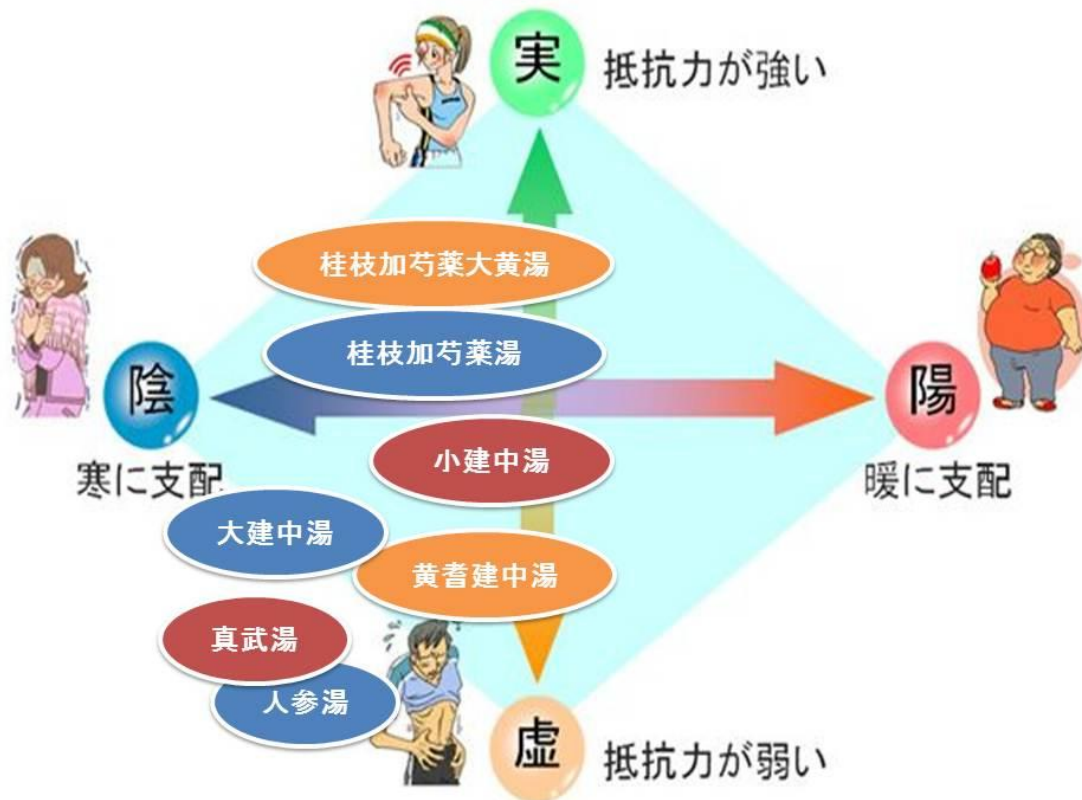


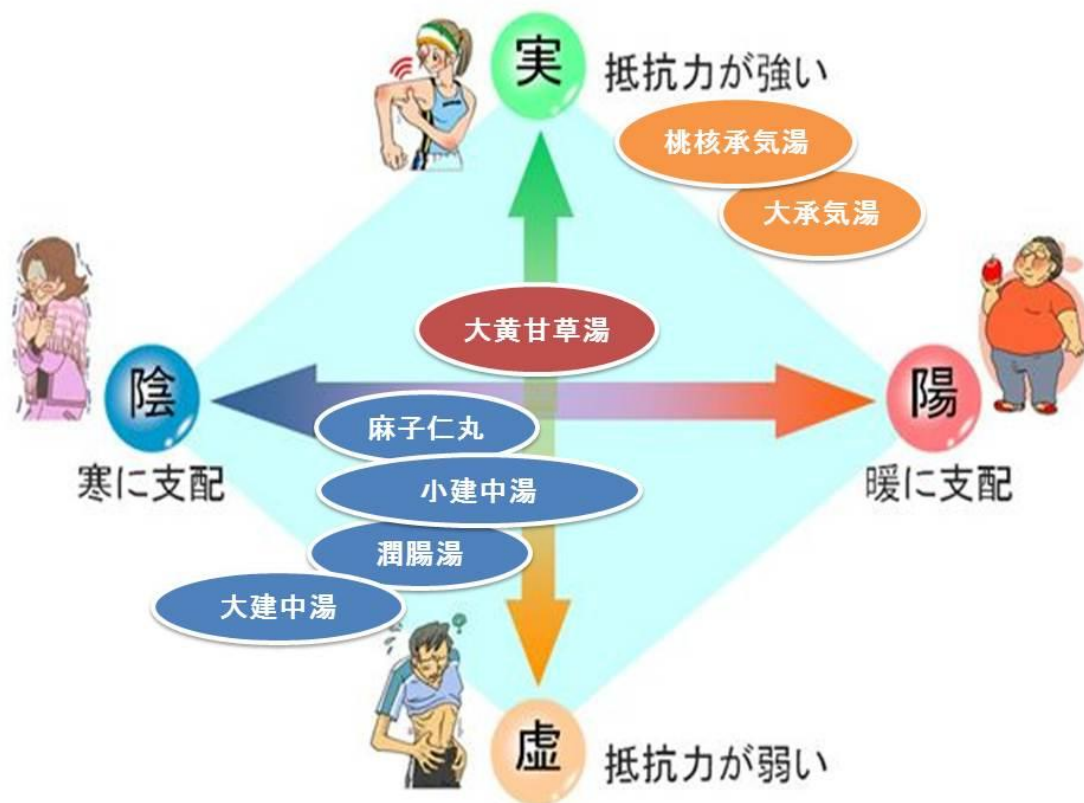
## 1. 下痢・便秘における漢方薬の使い分け

### ① 下痢における漢方薬の使い分け



- 虚弱体質の方の下痢、腹痛には、**小建中湯**などの建中湯類(ケンチュウトウレイ)が特に適応になる。
- 冷えが強い方には**大建中湯**(ダイケンチュウトウ)、体力低下の著しい方には**黄耆建中湯**(オウギケンチュウトウ)
- 過敏性腸症候群には**桂枝加芍薬湯**(ケイシカシャクヤクトウ)、便秘型には**桂枝加芍薬大黃湯**(ケイシカシャクヤクダイオウトウ)がよい。
- 冷えが誘因の下痢で腹痛がひどくなければ**真武湯**(シンブトウ)、**人参湯**(ニンジントウ)

### ② 便秘における漢方薬の使い分け



- 体力がある方には、ダイオウを含む処方(**大黄甘草湯**(ダイオウカンゾウトウ)、**桃核承気湯**(トウカクジョウキトウ)、**大承気湯**(ダイジョウキトウ))を用いる。
- 体力の低下した方ではダイオウ剤や西洋薬の下剤ではひどい下痢になる。腹痛をきたす場合にはダイオウを含まない**大建中湯**(ダイケンチュウトウ)、**小建中湯**(ショウケンチュウトウ)
- 高齢者でコロコロ便の方には、滋潤作用を持つ方剤(**潤腸湯**(ジュンチョウトウ)、**麻子仁丸**(マシニガン))を用いる。